

# チームけせんの和

## だより

2016

vol.11

6月号

発行 陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字鳴石42-5 TEL 0192-54-2111 FAX 0192-55-6118



### 新しい年度を迎えて

陸前高田の在宅療養を支える会会長 石木幹人

復興住宅が次々と完成し、自治会の活動も目に見えてきています。高台の住宅地は完成し、住宅が立ち並び、引っ越しが始まっています。被災した地域の嵩上げも最終段階です。今年度中に商店街の着工が始まりそうな勢いです。被災した陸前高田市の復旧がようやく目に見えるようになってきました。一方、被災しなかった地域（地震や津波により家屋倒壊などの物的被害を免れた地域）でも、人的被害があり、精神心理的な問題を抱えている人たちが多くいることもわかってきました。さらに高齢化率の上昇に伴い、高齢者だけの世帯も増え、介護や医療をどのように届けるかといった課題も現実のものになってきています。新しくできた地域の活性化とともに、被災しなかった地域の再生も一緒に考える必要があります。高齢者が、安心して暮らせるための活動が軌道に乗って初めて、復旧から復興ということになるのだと思います。

チームけせんの和は平成25年2月9日に設立総会を行い、以来3年を経過しています。研修会の企画や、事例検討会、健康寿命延長、介護予防に向けた啓発活動として、劇団ばば☆の活動など様々なことを実現してきました。それなりの成果が上がっていると思います。しかし、高齢化に伴い、障害を持った高齢者が増え、難しい対応を迫られることが増えてきています。そのためには、個々に対応するために、かかわるすべての職種の人たちのコミュニケーションを良く持つことが必要です。チームけせんの和は良い関係性を作るための場として、良い環境を提供できたと思います。さらにお互いに切磋琢磨できる環境の提供を模索していきたいと思います。地域の住民が、住み慣れた場所で一生安心して暮らせる陸前高田市を創るために、みんなで考え活動していきましょう。





## チームけせんの和に寄せて

竹駒施設総所長・松原苑介護次長 小規模多機能ホーム玉山 小松 秀博

平成28年4月16日に熊本県、大分県で発生致しました地震災害について、被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。また、気仙の地からも現地に駆け付け、地元の方々と共に支援を続けている皆様に対し、敬意と感謝を申し上げます。

私は医療法人勝久会「小規模多機能ホーム玉山」で所長兼計画作成担当者として勤務している小松秀博と申します。玉山温泉とよく間違われますが、ご利用者の皆様からは「むかし、ここは牛乳屋だった～。よく牛乳缶もって行かされたもんだった～」とお話されておりますので、概ね地元の皆さんには“むかし牛乳屋さんだった所”とお話しすると場所をお判りになる方が多いです。私自身、高田高校の卒業生で当時と変わり果てた町の姿に心を痛めておりますが、高田の皆さんにまたお世話になっていることに感謝いたしております。

「小規模多機能ホーム」とは、小さい規模で、通い、泊り、訪問を組み合わせで地域や自宅での生活をお手伝いする所です。利用者さんの思う暮らしを一緒に探していく所でもあります。「小規模多機能ホーム玉山」のご利用者さんは、主に気仙町、竹駒町、横田町、矢作町、高田町の皆さんにご利用いただいております。

具体的には、「通い」を希望されれば、利用者さんのご希望の時間から利用することもできます。泊りも、「通い」利用から当日に「泊り」への切り替えなど、ご家族さんの急用へもできる限り対応させていただいております。「訪問」は、自宅への訪問から、受診のお手伝いや買い物支援等も行っております。“通ったり、泊ったり、訪問の時も職員も利用者さんもいつも同じような顔ぶれ”が小規模多機能の特徴です。

普段生活していく中で、長期的に対応しなければいけない事、すぐに対応してほしい事等いろいろな“やってほしい事”があると思います。住み慣れた自宅や地域で生活を続けるためには、介護保険のサービスだけで賄いきれないものも沢山あります。特に、今までの介護保険のサービスだけでは、“すぐに”という部分は苦手だと感じております。小さい規模だからこそ早くできる、困った時にすぐに対応するというのを心がけております。陸前高田市で在宅介護を支える「チームけせんの和」の一員として、微力ですがお手伝いさせていただきます。いつでも声をかけて下さい。



小規模多機能ホーム玉山

## チームけせんの和 活動報告

### H28年度陸前高田の在宅療養を支える会総会（64名参加）

平成28年度総会は、5月15日市役所第6会議室にて行われました。協議事項は、64名の出席者のもと、全て承認されました。今年度も事業計画に基づいて邁進する事が確認されました。



### 平成28年度 第1回研修会（64名参加）

テーマ「地域創生 超超超高齢化社会を乗り切る」

講師 陸前高田市国民健康保険二又診療所 所長 石木 幹人

高齢化社会の到来にあたり、地域で支える仕組みづくりの近隣市町の取り組みの紹介がありました。自助・共助・公助をうまく組み合わせ、いずれ訪れる「超超超高齢化社会」を乗り切る秘策づくりについて、興味深いお話をいただきました。



## チームけせんの和に寄せて

認知症にやさしい地域支援の会 及川江巳

認知症については、テレビ・新聞等で多く取り上げられています。しかし、「どういう病気なの？」と、正しく知識として理解されている方はどれ位いるのでしょうか？

「認知症にやさしい地域支援の会」は、活動をはじめて今年で10年目になります。発足のきっかけは、市からのワーキンググループで「認知症にやさしいまちを目指して」というテーマで組織され提言書を作成しました。当時、「痴呆症」という病名で認知症の方を介護されている家族の状況が耳に入っていたので、ワーキンググループのメンバーで活動をはじめようと会を立ち上げました。活動のテーマを「介護の悩みをみんなで共有しよう」「あの人も私と同じなのだ。そうか、〇〇〇の時、あのよう介護すればいいの。」と、話し合う場となりスタートしました。回を重ねる中で、認知症について知る為に年1回の講演会を企画し、市民の方々と共に私達も学びました。

2011年（H23年）3月11日、東日本大震災がありました。会に尽力されてくれた方々も亡くなりました。しかし、このような時だからこそ「会」を7月に再開しました。会長の菅野不二夫氏は、浸水した自宅を改修され会場として提供してくださいました。そして、震災後第1回目の「認知症にやさしい地域支援の会」を開き、近況を報告しあい「進もう」と意思統一し良い会がもてました。

震災直後の大きな活動として、金ヶ崎町の復興支援予算の執行で「支援の会」参加者の温泉招待があり・内陸避難者との交流会を行いました。また、内陸避難者が高田を訪れた時にも会の参加者と交流を持ちました。どちらも多くの参加者が集い盛会でした。

これからの「支援の会」の活動は、今までの活動をベースに厚労省から出された「新オレンジプラン」のメインテーマ「認知症の人の意見が尊重され、出来る限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す」を具体化させるために「会」として何をしたらいいのか「チームけせんの和」の皆さんと共に考え活動していきたいと思ひます。



認知症にやさしい地域支援の会 寸劇の写真



認知症サポーター養成講座時の寸劇の写真

## ★劇団ばばば★ 公演報告★

今回の「劇団ばばば☆」は6月20日に竹駒町の下沢公民館にて、「塩を減らそう！」の公演を行いました。この公演では、主役の松太郎役を地元の住民さんが、子役を高田小学校1年生の女の子が演じてくれ大変盛り上がった公演となりました。「劇団ばばば☆」の公演のあとには、石木会長の塩分の適正な摂り方と高血圧についてのミニ健康講座もあり、会場にみえた大勢の人達（45名）と学びあう良い機会になりました。



## チームけせんの和に寄せて

社会福祉法人 陸前高田市社会福祉協議会 地域福祉部門 脇坂 健吾



地域福祉部門のスタッフ

日頃より本会の事業運営につきまして、格別なご理解、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。陸前高田市社会福祉協議会の地域福祉部門に所属しております脇坂です。

さて今回は、私が担当しております「ふれあい総合相談所」についてご紹介させていただきます。この相談所は、平成27年4月より開所いたしました。様々な理由や背景によって日常生活に生きづらさを感じている方々、課題を抱えている方々を対象とし、住民の

皆さまが地域で安心して生活を送るために気軽に相談できる総合相談窓口となっております。また、このふれあい総合相談所には、平成27年4月から施行された生活困窮者自立支援法に基づき、「自立相談支援センター」も併設されております。経済的困窮や社会的孤立などさまざまな社会的排除状態にある方々（生活困窮者）を対象とし、主に3つの事業を展開しております。

1つ目は、自立相談支援事業です。ワンストップの包括的な相談窓口として、状況把握やご相談者と一緒にプラン作成を行い、関係機関・団体と繋がりながら、課題解決を図っていきます。必要に応じて、地域への働きかけも行ってまいります。

2つ目は、家計相談支援事業です。自立のための家計収支全体の把握・改善、家計管理能力の向上などを目的とし、家計再建に向けた相談支援を行ってまいります。

3つ目は、就労準備支援事業です。ご相談者の就労意欲喚起や、一般就労に向けた基礎能力の形成を目的として、生活自立支援（生活リズムの改善）、社会自立支援（コミュニケーション能力の形成）、就労自立支援（就労体験）など相談者の状況に応じて段階的な支援を行います。

その他、明日食べるものがないなどの状況にある方々に対して、フードバンク岩手と連携した食料支援や、本会でやっている生活福祉資金貸付事業の緊急小口など緊急支援も行ってまいります。

これまで相談に来られた方々は、経済的な困窮と社会的孤立とが重複している場合が多く、1つの支援機関だけの力で課題を解消していくのは困難な状況にあります。今後は陸前高田市の医療、介護、福祉に精通するチームけせんの和の皆さまと連携させていただきながら、支援に努めてまいりたいと思っております。また皆さまが関わっている方々の中で、対象になりそうな方がおりましたら、ご遠慮なくお問い合わせいただければと思います。今後ともよろしく願いいたします！

## 在宅療養を支える会「チームけせんの和」への寄付報告

リハビリテーション「さんぽ」に勤務されていた池大樹様と竹駒町にお住まいのZ様（匿名希望）から「チームけせんの和の今後の活動に役立ててください。」とご寄付いただきました。池様は、「この度、ふるさとに引越することになりました。とのことでした。お二方に、紙面をお借りしまして感謝申し上げます。



笑顔の池さん

### 編集後記

今年度になって新事業所の加入もあり、「チームけせんの和」の益々の繋がりが期待されることとなりました。それぞれの事業所の皆様からいただいた原稿からは、本当に陸前高田の在宅療養を支えて奮闘している様子が見えてきます。一人ひとりの力が大きな力となるように今年度も「チームけせんの和」でみなさんと繋がっていきましょう。今年度もどうぞよろしく願いいたします。

※この会報は、市からの補助金で作成しました。